A report of the 81ST Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society in KANAZAWA

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/47874

『学会見聞記』

第81回日本循環器学会学術総会 金沢に参加して

A report of the 81ST Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society in KANAZAWA

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
循環器病態内科学
（博士課程４年）
吉　田　昌　平

2017年3月17日～20日にかけて開催されました，第81回日本循環器学会学術総会に参加させていただきました．実は，本学会は45年ぶりの金沢開催でした．前回の昭和４７年当時とは日本循環器学会自体の規模も格段に大きくなり，15000人程度の参加が見込まれる学術総会です．地方開催での是非に疑問を投げかけられることもある中，金沢大学が主管として開催させていただきました．著者本人も大車輪として東奔西走いたしました．３年前からの学会会場，ホテルの手配に始まり，特別講演，一般講演の演者の決定，プログラムの校生まで様々な当医局“初”の大仕事をこなされる先生方とともに企画に参加しましたが，皆この金沢での学会成功を切に願っておりました．

まずは開会式，まさかの突然の敦盛の舞に衝撃を受けたのは私だけではないと思います．流石に若干緊張した面持ちの当医局，山岸教授の挨拶に続き，様々な来賓の方々からのご祝辞をいただく中，やはり高円宮妃殿下からもお言葉を賜われたことは，本学会がやはり全国的，世界的にも注目されている学会であることが伺われました．開会式の最後には，書家の先生による大文字の作成．やはり事前の予想通り文字は“心”でした．これほどまでにバラエティに富み，参加者を楽しませる日本循環器学会学術総会の開会式は今までになかったのではないでしょうか．

当院，関連施設からの演題を合わせると約100題を数える演題が採択されており，初日から同僚の勇姿を見るために会場を右から左へ動き回っておりました．ひとつの会場が大きくないのは不安材料でしたがその代わりに広々とした雰囲気で，駅前に密集した会場設定でしたので思ったよりも不便は感じず見聞を広めることができました．日本循環器学会においては毎年，非常に専門性の高い基礎の研究から，臨床一般の教育セッションまで幅広い対象が研鑽を積むことができるプログラムとなっておりました．特に印象に残ったのはYIA Finalist Lecturesでの基礎研究のセッションでした．大学院生として研究に対するモチベーションを上げてくれる素晴らしい演題ばかりでした．

私は“Female iPS Cells Which Well Modeled X-linked Danon Disease Lose Their Characteristics in Association with Culture Periods.”という演題でポスター発表をさせていただきました．ダノン病の一卵性双生児から作成したiPS細胞由来心筋細胞のIn-Vitroでの表現型を見た研究です．未だ発展途上の研究で，英語での質問には適切な答えを返せていたかどうか不安でしたが，他の研究者の方々にも大変興味を持っていただいたようで，発表前後にもお話をさせていただく機会があり，大変有意義でした．明日からの研究に対してより一層強い気持ちで望むことができると感じました．

会場のエレベーターなどでは都会から参加されたと思われる方々と一緒になることもありました．「最近横浜や神戸ばかりあきたよなぁ」「金沢も初めて来たけどいいねぇ」という声が聞こえてきたのは本当に主管として嬉しく思えました．中でも最も評判の良かったのはシネコン (映画館) での口述発表です．普段の学会会場にはない座り心地の良い椅子と，音楽堂にも勝るとも劣らない音響効果，そして巨大なスクリーンに映し出される作成したスライド．事前には「これであなたもスター気分」という触れ込みもありましたが，実際，自分がスターになったのではないかと錯覚するくらいの演出は，少しくらい英語ができなくても，英語で発表したいと思わせるに十分魅力的であったようです．

そして何よりも3日間続いた晴天！３日連続で気持ちのいい青空が広がるこんな金沢の空を見たことが今まであったでしょうか．閉会式直後に降り出した雨を見ると，この続いた晴天はまさに我々の執念とも感じられる節がありました．最終的には12964名の登録参加者を迎えることが叶い，成功裏に終わった第81回日本循環器学会学術総会であったようです．私も主管の一人としてこの金沢での歴史的一幕に立ち会えて幸せに思います．明日からも大学での研究に，臨床に，また後進にこの経験を伝えることができるように精進していきたいと思います．